彼方【かなた】

校長通信
H25.10.28
Vol.21

【紛争と人間　～人間を救うのは、人間だ。～】

夜半の土砂降りも落ち着き、台風の影響も感じられなくなった土曜の午後、久しぶりに表参道を訪れました。すっかり様変わりした街並みに見とれながら会場になっている表参道ヒルズに向かいました。

「紛争と人間」という重たいテーマにも関わらず実に多くの若者が会場に足を運んでいました。小中学生の姿はさすがに見えませんでしたが、高校生や大学生がかなり参加していたように思います。しかも女性の数が多かったのも印象に残りました。

シンポジュウムは参加者への三つの質問から始まりました。

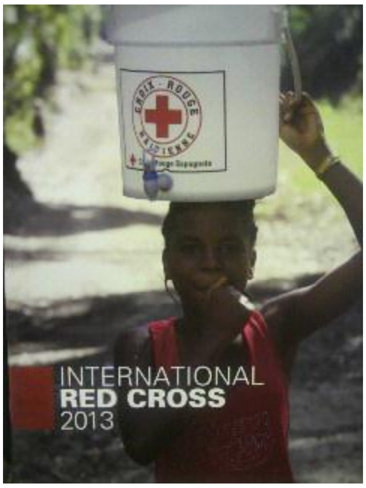
①「紛争に携わった経験がある人は？」
②「１００年後、世界から紛争がなくなっていると思う人は？」
③「将来日本は、何らかの紛争に巻き込まれると思いますか？」

最初の質問に（Ｙｅｓ）と答えた人は、ほんのわずかでした。「友人が紛争に関わっていたので、現地を訪れる機会を得た。」「赤十字の仕事の関係で紛争地域にいた。」というような人達でした。二番目の質問については、ほとんどの人の答えが（Ｎｏ）でした。「紛争はなくならない」という考えが圧倒的でした。最後の質問についても意見が偏り、（Ｙｅｓ）の人がほとんどでした。私の答えは、①が（ＮＯ）、②が（Ｙｅｓ）、③が（Ｎｏ）でした。みなさんの答えは、どうですか？

パネリストの瀬谷さん（紛争防止センター理事長）からは、「紛争は、二人いれば起こりうる価値観の違いから生じる衝突です。そう言う意味で考えれば、会場のほとんどの皆さんは紛争に巻き込まれているのです。」と。「確かに…。」と思いつつ、私の頭の中に真っ先に浮かんできたのが、学校の中の紛争「いじめ」です。二番目の質問については、同じくパネリストの井上さん（日本赤十字学園常務理事）が、コーディネーターの柳澤さん（ＮＨＫ解説委員長）とのやりとりの中で「赤十字は、理想論者で現実主義者です。」と語っていました。この話にも肯けました。「紛争をなくすための努力は惜しみなく続けなければならないが、現実に起きている紛争被害に対処することも急務な活動であることも事実なのです。」この言葉の中で「紛争」を「いじめ」に置き換えれば、まさに学校が抱える問題は、世界で起きていることの縮図なのだと実感しました。

現実の問題を無視し、理想だけ語ってもだめだと思いますが、「紛争（武力闘争＝命の奪い合い）を世界から根絶するという強い思い（理想）を語らずして、銃を手にして戦う子ども達を教育することは、絶対にできない」ということも同感でした。

学校の中のいじめ問題も、小四から中三までの児童生徒の九割が関わっていると言われています。（国立教育政策研究所の調べ）「今後、学校からいじめはなくなりますか？」と聞かれて何人が「はい」と答えるでしょうか。私は「はい」と強く答える教師でありたいと思います。



価値観の違いを暴力で解決するのではなく、話し合い、理解し合い、違いを認め合うことで解決する方法を考えられる人に育てていくことこそ必要な教育だと考えます。いじめのない学校や社会をつくることが無理なことではなく、強く強く願い、熱く熱く思いを語り、一歩一歩できることを着実に取り組む、それが必ず世界に影響を与える日本人を育てることになると思います。始めから“無理”だと考えていたら、なくなるものもなくならない、そんな世の中ができあがってしまいます。

世界で起きている「紛争」の話しを聞きながらもずっと学校教育のことを考えていました。今学校で起きているいじめ問題に真剣に取り組み、本気で助け合うことを教え続けなければ、日本の、世界の将来はないのです。パネリストの皆さんもキーワードは「教育」だと話していました。

「何とかしたい！」と強く思う一日でした。